

あいサポート・アートセンターからのお知らせ

あいサポート・アートとっとり展 作品募集

作品応募期間

2023年9月19日(火)～10月24日(火) まで

あいサポート・アートとっとり展 開催

本展

米子市美術館(第1～4展示室)

2023年12月9日(土)～12月17日(日)

中部巡回展

倉吉未来中心(アトリウム)

2024年1月10日(水)～1月17日(水)

東部巡回展

鳥取県立博物館(第1・2展示室)

2024年1月25日(木)～1月30日(火)

あいサポート・アートとっとり祭

倉吉未来中心

2023年11月11日(土)、12日(日)

Hugs 次号のお知らせ

2023年 冬 発行予定

特集: SOI STANCE

コラム: あいサポート・アートセンターはこんなところ!

Hugs 2023年秋号 vol.6

2023年9月1日発行

発行/あいサポート・アートセンター

〒682-0821 鳥取県倉吉市魚町2563

TEL:0858-33-5151

FAX:0858-33-4114

E-MAIL:tottori.asac@gmail.com

HP:https://art-infocenter.jimdofree.com/

取材・編集 / 水田美世

撮影 / Ys Photo Studio

デザイン / 森下真后

協力 / 鳥取県

障がいと共に生きるアーティスト達とそこにある世界を発信するフリーペーパー

Hugs

はぐす

2023年秋号 vol.6

本当にそれは 彼らがまさに 生み出した もんだから

特集:「羽合ひかり園」

コラム: あいサポート・アートセンターはこんなところ!

森本賢次(無題)2015 ©羽合ひかり園

あいサポート・アートセンターはこんなところ!

▷あいサポート・アートセンターは鳥取県が平成30年に設置した障がいのある人のための文化芸術活動拠点です。

センターのお仕事紹介 その2 人材育成

支援者等に対して、芸術上価値の高い作品等の適切な記録、保存方法、販売等の支援、及び所有権、著作権その他の権利の保護等について研修等を行うよ。



センターマスコット
まみちゃん

「Hug」という言葉には、“愛情をもって抱きしめる”“こだわりを守り続ける”“自分自身を幸運だと思う”などの意味があります。フリーペーパーHugsは、障がいと共に生きながら創作や表現活動をしている方々や施設を取材し、その活動の様子や日々の思い、そこから広がる豊かな世界を伝えていくことを目的にしています。

▲「Uni-Voice」という目の不自由な方のための音声コードです。

▲「Uni-Voice」という目の不自由な方のための音声コードです。

本当にそれは彼らがまさに 生み出したもんだから

行為やコミュニケーションやその過程に至るまでをひっくるめて、それぞれの人の表現として受け止め活動してきた障害者支援施設「羽合ひかり園」(運営:社会福祉法人鳥取県厚生事業団)。20年以上前から実施されてきた活動の様子を外部講師の野崎康孝さんと担当職員筒井宏海さんに伺いました。

ー アートの活動がどのように始まったのかを教えてください。

筒井:現在の活動は2014年からです。私が担当になったのは今から4年ほど前なので、それ以前のことは当時職員だった野崎さんが詳しいです。

野崎:実は20年以上前にもアート活動をやっていました。ひかり園には寮がいくつかあって、いまのアート活動にも参加している森本賢次さんや毛利孝幸さんが所属していた「麦の穂寮」で始めたのが最初です。当時の施設長がアートをやろうと言い出したんですが、私は当初アートなんて無理だって思ったんです。でも、それぞれの人の作業スペースを区切る衝立の段ボールに、森本さんが描いたものうえに毛利さんが描いた大きな1枚を見つけて。それを見たときに気が変わりましたね。これはすごいなと。そこの担当の職員には内緒でそれを剥がして展覧会に持って行きました。後で文句言われましたけど(笑)

ー 1人1作品は必ず出すというその展覧会はどのように実施したのですか。

野崎:絵の具を筆に付けて渡しても受け取らないしこちらが想定しているような作品にはならない人がいて、もう受付に座っててもらおうかなと思ったんだけど。その人が毎日散歩の時に道端の草をちぎっては捨ててと繰り返していたんです。その草をとにかく全部拾うことにして、その草を板に貼り付けて作品にしたんです。その人とは別で、汚い話ではあるんですが、ゴミを拾っては手で丸めて、たまに口に入れてまた出してっていう人もあったんです。それもみんな受け取ろうってことになり、集めて乾かして、だんだん匂ってくるようなもんもあったけど(笑)あんまり口に入れなかったようなやつを1個だけ選んで、板にぼんと貼って展示してね。本人じゃなくて私が並べたんですけどね。だからそのときはもう本当にそれは彼らがまさに生み出したもんだからってね。

筒井:その作品はもうないですよ。

野崎:どちらも売れたんじゃないかな。

筒井:え?!

野崎:売れたんです。展示した作品はほとんど。これだけ売り上げができたんですって保護者会で報告したら、どんどん材料を買ってもらって結構だからって、なんぼでも応援すると言ってくださったりしてすごい変わりましたね。



左:筒井宏海さん 右:野崎康孝さん

ー 野崎さんが退職後に再び外部講師として関わるようになったいきさつは?

野崎:私が辞めて数年後にはアートもだんだんと下火になり、私に声が掛かった時にはしてなかった。補助金が出てひかり園もやりたいって相談があって。自分がやとったときに活動していたアーティストが何人もそのままいたもんだから、何ぼでもできるといって2014年に「かがやきアートクラブ」として再スタートしました。

ー 筒井さんは元々どういうことに興味があって福祉の現場に携わるようになったんですか?

筒井:もともとは音楽が好きで、ギターをつくる専門学校に通ってたんです。

野崎:へえ!

筒井:だからもともと福祉の勉強は全くしてないですね。この法人に入ってからTシャツをデザインしたり、アート活動の冊子「ばゆーん・そゆーん・アートだわいな2015」もデザインして作品選びから撮影もやって楽しくてね。ちなみに入社後に資格はちゃんと取得しました(笑)

ー 楽しむって大事ですよ。福祉って「幸せになる」専門の活動だと思うので、楽しむことは福祉の大事な部分だと感じています。

筒井:この仕事ってずっと人材不足なんですけど、だから「やってみよう」って思ってもらえるような働き方をしたいと日々思っています。きついしんどいというイメージがあるけど、こんな感じでアート活動して楽しんでるやつもいるんで。ぜひどうかな?ってね。あと「リサイクル×地域×アート プロジェクト」と名付けて、屋外にリサイクルボックスを設置してまして、その収益をアート活動に当てています。うちの施設で出たものは皆さんに運んでもらう仕事にもなりますし、あとは資材を捨てに来た一般の方に活動を知ってもらうツールにもなっています。潤沢には財源が無いので、自分たちで使いやすい資金を生み出したいなど。

野崎:私の小遣いも増える。

筒井:野崎さんの謝金は2倍にします。その代わり2倍働かないといけませんよ。

野崎:それはえらいわ(笑)



(上)森本賢次さん。横長のベニヤ板に鉛筆で強く文字やバイクの絵を敷き詰めていき、その上からオレンジ色を重ねる制作に取り組んでいる。(下)アート活動を離れた時間には印刷物の切り抜きやお菓子のパッケージなど様々なものをスクラップしていく造形にも取り組む



制作をする安達宜教さん。顔から手と足が伸びるオリジナルの人物表現や鮮やかな配色でキャッチーな作品を手掛ける

▼「Uni-Voice」という目の不自由な方のための音声コードです。



毎日累計1時間ほど、砂を手にしてその感触を確認している驚見浩介さん。購入してきたきれいな砂にご本人がプランターの砂を加えるなどしてブレンドされていく



毛利孝幸(無題)制作年不詳
白い絵の具を好んで用い、塗り重ねることで厚みが出てくる。この作品は異なるが最後に黒や茶色で塗られた作品もあり、その行為は「完成」もしくは「終了」を意味するよう



社会福祉法人鳥取県厚生事業団障害者支援施設 羽合ひかり園

2014年より「かがやきアートクラブ」としてアート活動を再開。重度の知的障がいのある方の生活の支援を中心として、それぞれの人の行為や日々のコミュニケーションなどから生まれたものをアート活動の表現として受け止めてきた

〒682-0713 鳥取県東伯郡湯梨浜町光吉9-2 TEL:0858-35-2435 FAX:0858-35-2434

▼「Uni-Voice」という目の不自由な方のための音声コードです。

